

# 教科研究における保育の授業の展開(二)

磯 部 景 子

子どもはどのような世界にすんでいるのでしょうか。子どもは何をどのように感じ、何をどのように考えているのでしょうか。

先回は家庭科研究の保育の授業を子どもの世界について思いめぐらすことから始めることについて述べました。そして「子どもはどんな世界にすんでいますか?」ということばをきいて、思いうかんだことを書いてもらい、その中から例をあげましたが、今回もひきつづきその資料の中からいくつかの例をあげることになりました。

広がりつつある世界

子どもの世界は子ども自身を中心点とした円と考えることができる。そして年齢の長ずるに従って、その円を同心円として広がってゆく。

(国語 M・F)

○

人間は、はじめは、だれでも真白な紙の状態で生まれてくるのであり、子どもの紙の上には、まだ書いてあるものが少ない。子どもは未知の世界と現実の世界とを自由に行き来できるし、このふたつの世界を行き来することにより、少しずつ、自分の住む世界を広げていくのだと思う。

(幼児教育 N・M)

可能性をためす

青年期の自我といったものではないが、自分というものを中心に、無意識の中で、自分の可能性をためす。たとえば、赤ちゃんがある日、手を発見し、動かしてみ、何かをつかむ。手が動く。便利なものだと思う(赤ちゃん自身が思うかどうかはわからないが)。このような感じの可能性の発見の毎日である。それは、いろいろな質問やいろいろな行動になってあらわれてくる。

## 動きのある世界

(不 明)

子どもは、あらゆる事に興味を持っている。彼らが住んでいる世界は、子どもが動きまわるといふ意味だけではなく、子どもが住んでいる世界そのものが、動きのある世界だと思ふ。

(幼児教育 T・T)

## 広い世界

おとなは鏡の中をのぞいて、そこにうつる世界に子どもが住んでいると思つてゐるが、そうではなくて、子どもは鏡にうつる世界にとても似てゐるけれど、それ以上に本物の世界に住んでいる。子どもの世界はおとなが見る子どもの世界よりも、もっと広く深いもの。

(心理学 M・T)

子どもの世界は限りなく広いものだと思う。おとなには、まるで思ひつかないことを当然のことのように考へるのではないか。

(心理学 Y・K)

とても広い無限の世界。子どもにとって、不可能と思はれるこ

とはないだらう。自然のなかで、自分たちだけのまったく別の新しい世界を創り出してあそぶ子どもたちに魅力を感じるのです。子どもたちは、魔法とか、秘密とかが好きです。そして現実と違つた新しい世界をそこに見つけ、すぐに、そこにスムーズに入りこんでいく。

(国語 F・A)

子どもは知らないことが沢山あり、経験も乏しいので、狭い世界にすんでゐると思はれる。しかし、空想という世界をもつてゐるといふ面では、無限に広い。私たちよりも、ずっと大きな世界にすんでゐると思はれる。

鳥とも花とも話すことができる、夢に満ちた世界にすんでゐると思ふ。

(数学 T・H)

自然の草木やおもちゃなどを全部、自分の仲間とし、それらと自由に接触でき、想像の世界が広がつてゐる。また私たちのように、すべて、時間によつて動くのではなく、時間とは関係なく、自由に行動する世界をもつてゐる。

(音楽 A・K)

おとなの世界よりも、もっと、もっと広い世界の中に住んでゐる。

子どもの世界には夢があり、無限の空想がある。  
どんなことも、素直に受けとめる心のある世界。

(音楽 A・Y)

常識などといわれるものに、まったく無関心な世界に住んでいて、自分の感情、感覚を大切にし、それを育てるべき存在であること。あらゆる可能性を秘めていて、思ったことを素直に表現できる時代である。ひとつの閉じこめられた世界からはみ出している。

(哲学 I・T)

空や海などに象徴できる大きな広い世界。

(幼児教育 K・S)

おとなとはちがう子ども独自の世界  
おとなが忘れてしまった世界

子どもの世界はおとなの物指でははかれない。おとなでは考えられないものを持っている。私たちが入ろうとしても、無理のようである。それなのに、子どもは大きくなるにつれて、その世界からすべり出して、その世界をしないで忘れていってしまう。

(国語 M・H)

子どもは、特に、自分自身を中心とする世界(おとなもそうであるが)に住んでいると思います。そして、純粹に物を見つめる世界にいると思うのです。ほんのちょっとしたことに感動したり、感激したりするような、私たちが、忘れてしまった世界かもしれません。

(幼児教育 M・I)

花を見れば「お花が笑っているよ」とうれしそうに言い、犬や小鳥と、ほんとうに話をしているなど、おとなにはなくなってしまう世界に住んでいるような気がする。

そして、こちらの状態を、例えば、機嫌が良いとか、悪いとかを鋭く感じとるなど、ものごとを見抜くものをもっている。

純粹ではあるが、反対に、何か恐ろしいような世界にも住んでいる。

(国語 H・O)

子どもがどんな世界に住んでいるか、おとなにはなかなか理解できない。おとなの眼では、何か型にはまった、お決まりのものしかおもしろさを眺められないが、子どもといっしょにしていると、おとなには全く思いもつかないことが、子どもにとっては喜びで

あつたりする。

(不 明)

(幼児教育 Y・F)

子どもたちの背は低い。だから目の位置は、私たちより一メートルほど下にあり、彼らの視覚による世界は私たちと、かなり違つた感じだと思ふ。また目にみるものすべてが、私たちの見るおきさより大きく思われる気がする。

子どもたちには宝がある。私たちがどうでもいいものを宝にする。周囲のすべてのものに、私たちと違つた価値観をみいだす。

(数学 E・H)

ドン・キホーテのように風車を見て、怪物だと思ふように、おとながみたら何の関連もないのに、物を擬人化し、また、そのものがあたかも動いたり、しゃべっているような想像をする。

現在のおとなたちが忘れているものを子どもたちは行動によつて示してくれる。

(化学 Y・H)

子どもひとりひとりの世界

子ども自身の世界

子どもにとっては、いろいろなものが未知である。子どもには自分なりの想像によつて、それぞれの世界があると思ふ。

子どもは、精神的にまったく自由な世界にいると思ふ。現実と空想の世界を往き来して、おとなの思いもよらないことを発明したり行つたりする。子どもひとりひとりの世界の広がり、それぞれ大きく異なっているのではないかと思ふ。(国語 M・O)

子どもとおとなとは、現実には、同じ世界に住んではいるが、子どもは、おとなはいりこむことのできない、子ども自身の世界を持っていると思ふ。

(音楽 M・M)

おとなと接触をもつにはもっているが、おとなとは別の世界に住んでいる。子どもが話しているのをきくと、何を話しているかわからない時があるが、子どもどうしでは、結構通じている。おとなよりも、本当に気持ちが伝わっているように思える。

(音楽 R・M)

子どもは自由で、かつ、創造的な世界に住んでいる。創造的な世界というのは、自分でいろいろなものを作り出して、遊びの世界をつくるからである。私たちにはつまらないものにみえるもの

でも、子どもたちにとっては、すばらしいものとなるからである。

また、子どもは、自分だけの世界にも住んでいる。そして、何かに夢中になると、こちらのいっていることも全くわからないくらい、一生懸命やっている。

(美術 M・T)

女の子にとっては、人形はまさに息をしていて、生きているものとしてとらえられ、男の子は、紙飛行機を飛ばして、紙飛行機とともに実際に空を飛んでいるのである。

(不明)

乗り物の好きな子どもは乗り物の、動物の好きな子どもは動物の沢山いる世界を持っている。

(不明)

自分だけの個人的な解釈をすることが出来る。それは他人からあたえられたものでないだけに価値が大きい。(数学 Y・Y)

### 空想・想像・創造

子どもは常に創造的な世界に住んでいる。空想することが好きで童話や物語を読んで聞かせると、自分がその話の中の主人公になったつもりになり、すぐに、その話の中へ自分を移しかえるこ

とができる。

子どもにとって現実と空想、または夢がはっきり分化できないと思う。そのため、昨晚みた夢と現実をとりまぜて、まるでそのことが現におこったようにおとなに話す。

絵本でみたこと、まんがで読んだことが、そのまま現実におこるかのようになり、その主人公のまねをして、高いところからとびおりたり、木に登ったりする。

(幼児教育 M・K)

### 感じる世界

無限の未知の世界。そしてそれは、自分の完成されていない部分においていろいろな可能性を持たせる。感情の豊かな、何にも拘束されない世界で、拘束されるとするならば、それは子どもだけの世界における掙によってであり、それも、自由でたのしいものである。無心に物を見て、考えて、何よりも感じる世界に住んでいる。

(美術 K・S)

子どもの世界は、なにかもが彼らの冒険の対象になるのではないかと思えます。例えばおとなから見れば、ただのへいのこわれた穴でも、それをくぐれば何かがあるようなそんな気がするの

だと思えます。子どもは砂をにぎって、こぼして、そんな何でもないことに喜びを感じられる世界にいるのだと思えます。

(幼児教育 A・W)

私たちの一日の時間を彼らは計りしれない程の時間に置きかえてしまおう。

(不明)

## 残酷

子どもは夢のある世界にすんでいると思います。また、子どもの一面として非常に残酷な面をも持ちあわせています。ちょうちんの羽根をむしったり、蟻を踏み殺したりすることも平気なようです。

(幼児教育 Y・S)

○

主観的な世界。自分が幸せなとき、周囲の人々はみんな幸せであり、自分が不幸であったり、不愉快なときは、周囲もそう見える。イメージが独創的である。絶対的にすぐれた者として、おとなにあこがれる。やさしいところもあったり、残酷であったりする。

(数学 H・O)

## 子どもと時間

子どもの動作が、あまりにも短時間で変化することは、子どもの世界というものは、時間の回転が速いのか。

(数学 S・K)

時間のたつのがおそい。おとながひとつのことをやりとげる間に十のことをやってしまう。エネルギーシユな世界。(不明)

○

純粹さがある。ものごとを見る時、いつも新鮮な感動をもってみる。素直にものをみつめる。一日一日を新しい世界のできごととして体験し、一日がとても長い。

どろんこあそびや砂あそびなどで、小さな砂山に山を想像したりして、空想力がゆたかである。

(美術 T・A)

○

子どもにとっての世界は、限りなく、永遠で、未来への希望に満ちた世界である。

(史学 M・O)

(つづく)

(愛知教育大学)

